

# ～温かなまなざしのもとで それぞれの子どもに合わせたステップを刻む～ 東京都立清瀬特別支援学校



知的障害のある子どもたちが通う、東京都立清瀬特別支援学校。小・中・高等部の3学部が設置されている

松山三丁目にある東京都立清瀬特別支援学校。児童・生徒の安全のために閉ざされた門や、コンクリート造りの建物に、少し近づきたいような印象を受けるかもしれませんが、一歩なかに足を踏み入れると、先生方のまなざしの温かさや手厚い対応に驚きます。

校内見学をさせていただいた際の歩く速度、ドアの開け閉め、すでに午後8時近いというのに嫌な顔一つせず教員を拝見させていただく熱心さ…。このような温かい配慮を持って子どもたちに接していらっしゃる感じがしみじみと伝わってきました。

今回は、清瀬市・東久留米市・東村山市の3市から、小・中・高等部合わせて36人の児童・生徒が通っている清瀬特別支援学校で、土田校長・岡田副校長・伴副校長、以下複数名の主幹教諭の方にお話を伺いました。

問合せ 東京都立清瀬特別支援学校 ☎494・0511

## 市民 パルターズ

このコーナーでは、市内在住の市民編集委員が清瀬に関連する施設や事業者を巡って、清瀬の特徴を紹介いたします。



市民編集委員

高橋玲子さん  
(上清戸在住・会社員)

高等部ではより具体的に、それぞれの生徒に合った形で自立と社会参加ができるよう進路指導をしています。食品加工・陶芸・紙工

障害のある児童・生徒数は年々増加傾向にあり、障害も多種多様化しています。清瀬特別支援学校では、基本的に希望者は全員受け入れ、障害に応じて3人に1〜2人、もしくは6〜8人に1〜3人の教員が担当するため、教室はいっぱいに使われています。「個別指導計画」という、いわゆる「あゆみ(通知表)」のようなものでその子どもに合わせた課題を定め、子どもは自分の目標に向かって努力していきます。

現在、清瀬特別支援学校で力を入れているのが、「体験」を積み重ねる学習です。特に小・中学部では、「わかる」ことから興味関心が広がり、「できる」ことにながため、体験を大切にしています。キャリア教育も意識しながら、日々のふれあいや感じたことが社会につながっていくことを知り、自分を大切に思い、生きていく力を身に付けられるように、家庭と協力しながら課題に取り組んでいます。

一人一人に合わせた教育

特別支援学校で最も特徴的なのは、その子どもに合わせて「ステップ」で進んでいくところです。同じ教材を使っても反応はさまざま。市販の教材では対応が間に合わない場合には、教員が手作りすることも多くあります。

どのような教材でどのような展開にすれば子どもが良い反応を示してくれるのか、教員がプレッシャーとともにやりがいを感じるところです。悩んで苦しんで作ったものに、子どもが喜んで反応してくれた時は、教員の喜びもひとしおだそうです。

一人一人に合わせた教育



(前列左から)今回お話を伺った岡田副校長・土田校長・伴副校長と清瀬特別支援学校の主幹教諭の皆さん



校内にある「教材開発室」(写真左)。ここで子どもに合った教材(写真右)を教員が手作りする



製作業(クリーン・事務補助など)の作業学習がありますが、その質の高さは、外部から名刺印刷やクリーン作業を依頼されるほどです。都庁などでの企業実習もあり、近年は就職率も上がっています。地域の就労支援室と連携しながら、就労後のアフターケアにも努めています。

響く喜び

12年間共に過ごす中で

小学部に入學した子どもは、ほぼ100%が高等部まで通います。始めは付き添いが必要だった子どもが、環境に慣れて一人で通学できるようになるなど、同じ環境で長く過ごすことには、できることが少しずつ増えるという良さがあります。体育祭や文化祭などの学校行事でも、グラウンドでお互いの姿を見合うため、将来の姿を描きやすくなります。

何か一つ光るところを

朝、スクールバスで登校した児童・生徒さんが、元気で穏やかな表情を見せてくれるのが先生方の喜びの基本ですが、「何か一つでも一生懸命に取り組む、自信を持ってくれたら、それが一番の励みになる」そうです。

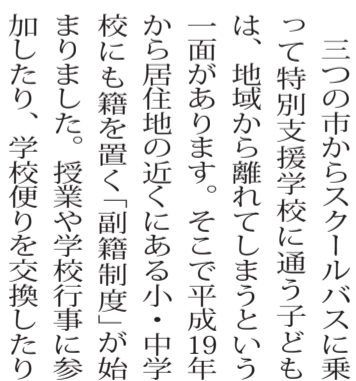
三つの市からスクールバスに乗って特別支援学校に通う子どもは、地域から離れてしまうという一面があります。そこで平成19年から居住地の近くにある小・中学校にも籍を置く「副籍制度」が始まりました。授業や学校行事に参加したり、学校便りを交換したり

先生方は、「どこか光るところを見つけられるように、日々、試行錯誤しています。うまく当たると、子どもはスポンジのように吸収してくれます。個性さまざまなかで、保護者の方々とともに、その成長を感じられるのが本当にうれしい瞬間です」と話してくださいました。

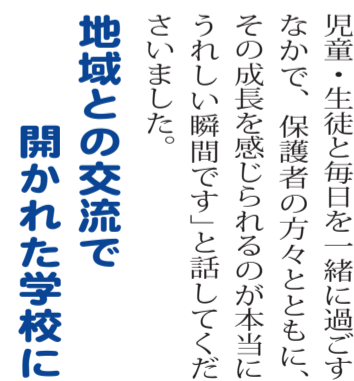
地域との交流で開かれた学校に

取材を終えて

敷居が高く近寄りづらい建物、という当初の認識はあっさり覆され、温かさに包まれた学校ということがよく分かりました。毎年1月に開催される清瀬祭は、人気の販売物では整理券が手に入らないかもしれないですが、ぜひ伺ってみたいと思います。



幅が広く作られている廊下(写真左)と、スロープに張られたネット。校舎の作りは通常の学校とほぼ変わらないが、要所に安全への配慮が見受けられる



「きよせ夏まつり」は千人もの参加者が集まり、「清瀬祭」は舞台発表や作業学習で作ったお皿やパンなどの販売品を楽しみにしてください。整理券を配布して並んでいたほどの盛況ぶりです。見せていただいた手作りの陶器は味わい深く、パンは素材で優しい味がして、並びたくなくなるのも納得の出来栄でした。

年2回の学校公開やホームページで募集する公開講座もあります。見学は随時歓迎なので、ご希望がありましたらぜひ足を運んでみてください。



清瀬市のなかでは、特別支援学校が隣接する三小ともお互いの学校を訪問し合い、ゲームや音楽などで交流を深めています。

清瀬市のなかでは、特別支援学校が隣接する三小ともお互いの学校を訪問し合い、ゲームや音楽などで交流を深めています。

清瀬市のなかでは、特別支援学校が隣接する三小ともお互いの学校を訪問し合い、ゲームや音楽などで交流を深めています。

清瀬市のなかでは、特別支援学校が隣接する三小ともお互いの学校を訪問し合い、ゲームや音楽などで交流を深めています。



高等部の生徒が作ったパクリ切れるほどの人気を誇る「清瀬祭」では売れなくなるほどの人気を誇る